

井上光貞 あけび 國史學者、文學博士。大正六年九月十九日東京生れ、
昭和五十八年一月二十七日歿（一九七—三）。井上馨の曾孫。昭和十七
年東京帝國大學文學部國史學科卒。古代史専攻。四十一年東京大學教
授、四十九年同大文學部長。國史歴史民俗博物館初代館長。

著書に『日本のあけびのー建国と紀元をめぐって』（中公書・ニッポン宮景
に編、昭和二十四年）一月五日光文社「カッパ・ブックス」、『日本
國家の起源』（昭和二十五年四月十八日岩波書店「岩波新書」）、『日
本古代國家の研究』（昭和四十年十一月八日岩波書店）、『日本古代
の國家と仏教』（昭和四十六年一月二十日岩波書店「日本歴史叢書」）、
『東大二十余年』（昭和五十二年四月二十一日神奈川・自刊）、『日
本古代思想史の研究』（昭和五十七年二月二十四日岩波書店）、『わ
たぐしの古代史學』（昭和五十七年九月十五日文藝春秋）、歌集『冬
の海』（昭和五十九年一月二十七日井上明子刊、開成出版株式会社）、
『井上光貞著作集』全十一卷（昭和六十年六月十日—六十二年）二月十
日岩波書店）等。

